

# 「だいじょうぶ」が、 ここにある。

きこえない・きこえにくい子どもたちの  
未来に向かう力を共にはぐくむ

特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構  
(NPO こめっこ)

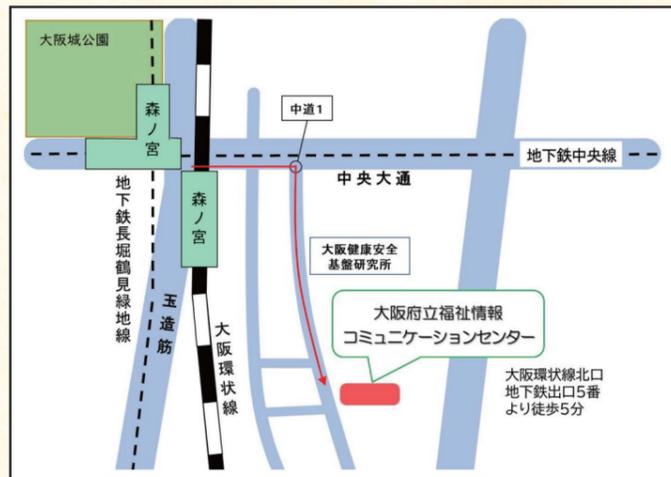
TEL 06-6748-0084

FAX 06-6748-0089

HP <https://www.comekko.com>



HP



〒537-0025

大阪府大阪市東成区中道1丁目3番59号

大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター3階



※NPOこめっこは、大阪府教育委員会の「乳幼児家庭の教育  
力向上事業」に賛同した取り組みを行っています。この事業  
で作成されたリーフレット「乳幼児期に育みたい！未来に  
向かう力」はこちらよりダウンロードできます。



© 2022.07 NPO こめっこ

ことば  
子どもの手話の力を育む  
**NPOこめっこ**

# 生涯を見据えた幅広い支援のはじまり

## ことば 手話との出会い・バイリンガルへの道



## ことば ところ・手話・家族



### 子どもの手話言語獲得・習得の支援

手話言語のあふれる環境で、赤ちゃんは自然に手話を獲得します。そして、あそびを中心とする活動をとおして、子どもたちは見てわかることばで多くの知識を吸収し、人とかかわる力を育みます。手話力も思考力もスキルアップです！

### 保護者の手話学習

育児に活かせる手話を楽しく学びます。文脈に合った表現を学べるよう、短文を作って練習します。親子間の手話コミュニケーションが豊かになることで、子どもたちはわかる経験を積み上げていきます。

### 出会いとアイデンティティ形成

「こめっこ」には幅広い年齢層のろうスタッフがあります。ろう親のもとに育った聴スタッフ(CODA)もいます。ロールモデルとなる先輩、手話をもって生きるさまざまな人々との出会いが子どもたちのアイデンティティ形成を促し、保護者が安心して子どもの将来像を描ける支援につながります。

### 心の成長の起源：愛着形成

保護者が不安のない心で赤ちゃんの目を見つめ、わが子のありのままを愛おしく包み込むために、手話は「だいじょうぶ」の自信をもたらせてくれます。乳幼児さんとご家族がゆるぎない絆で結ばれ、きこえない子どもたちのもつ能力が最大限に引き出される成長のスタートです！

NPOこめっこでは、手話言語の獲得と聴覚活用を支援の両輪と捉えています。もちろん人工内耳を装着する子どもたちも支援の対象です。

かわさき よしこ  
河崎 佳子

神戸大学教授  
こめっこスーパーバイザー



長年にわたり、心理士としてきこえない人々に向き合い学んできた私にとって、NPOこめっこの活動はまさに夢の実現でした。新生児聴覚スクリーニング検査後のワンストップ相談窓口「ひだまり・MOE」は、多領域多職種連携の要として、赤ちゃんから青年期までを対象にバランスを保った継続支援を目指します。

聴覚活用を遠ざけることなく、母語としての日本手話を獲得できる場を、ご家族と共に笑顔で作り上げています。そして、手話言語の獲得は日本語の習得にも寄与します。目指せバイリンガルです！生涯発達を見据え、のびやかで豊かな対人関係と人格形成を求めて、子ども・保護者・スタッフみんなが育て合い育ち合う「こめっこ」です。

### 「こめっこ」のあゆみ

2017年3月29日  
大阪府手話言語条例（「大阪府言語としての手話の認識の普及及び習得の機会の確保に関する条例」）施行。

2017年6月  
乳幼児期手話言語獲得支援事業「こめっこ」（日本財団助成事業）スタート。公益社団法人大阪聴覚障害者協会が大阪府と連携・協力して運営。

2020年2月  
NPOこめっこ（特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構）設立。

2020年4月  
NPOこめっこが「こめっこ」の活動を引き継ぐ。

2020年6月  
大阪府立福祉情報コミュニケーションセンターがNPOこめっこの拠点となる。（ひだまり・MOE、もあこめの活動も加わる）

ものい あきこ  
物井 明子 NPOこめっこ 代表理事



健聴者と同じようにはきこえない私は、ろう者である両親のもと、日本手話を母語として生きてきました。つまり日本手話と日本語のバイリンガルです。きこえの程度にかかわらず、目で見てわかる言語は必要です。こめっこで手話に出会い、子どもたちの瞳と手はつたえあう・かわりあうために、ぐんぐんとまっすぐに相手に向かっていきます。その成長をご家族とともにわかちあえる瞬間が、私にとって最大の喜びです。目で生きる子どもたちとご家族を私たちは応援します。

くぼさわ ゆたか  
久保沢 寛 NPOこめっこ 常務理事



こめっこの活動は、未就学児を対象とした手話言語獲得支援から始まり、現在は日本財団の助成を得て、児童をも対象とした支援と研究が可能になりました。生まれて間もない赤ちゃんから小学生まで、日々の活動やさまざまな検査をとおして、子どもたちの変化や成長を間近で感じ、それらを保護者と共有できることは幸せなことです。これからも、ろう者として支援と研究をつづけ、多くのご家族とつながり、全国にこめっこの活動を広げていきたいと思っています。

# こめっこの活動

「こめっこ」はきこえない・きこえにくい子どもとその家族が、手話とろう者に  
出会う場です。遊びを中心としたプログラムの中で、子どもたちの手話言語  
獲得と保護者の手話習得を支援しています。

## 対象

きこえない・きこえにくい子どもとその家族  
聴覚障がいのある保護者や きこえないきょうだいをもつ子どもたちも歓迎しています



ルールがわかる  
プロセスがわかる



こめっこマスコット「そら」

なかまと共に「わかる」体験を広げよう！

# もあこめ



第1・3土曜日 午後 **MORE COMEKKO**  
対象：小学生

就学後のきこえない子どもたちが集う場  
手話であそび、手話で語り合い、手話で学び、  
手話の力を磨きます

グループでのZoomお話し会も  
行っています！



もあこめは、日本財団の助成事業である「手話言語を獲得する子どもの力研究プロジェクト」の一環として実施されています。

## 放課後こめっこ 放課後もあこめ

平日 午後  
対象：3歳以上の幼児と小学生



古石篤子名誉教授  
(慶應義塾大学  
言語学・言語教育政策)

子どもは友だちと「ことばのキャッチボール」  
をして大きくなります。

そのとき、「形」ではなく「意味」に集中することのできることを持つことが  
どんなに大切なことか。自由にのびのびと相手とボールのやり取りをしながら、  
仲間ができ、考える力が育ち、一緒に何かをする力も伸びていきます。手話がそ  
んなことばになってくれたら、日本語もきっと大きく伸びる土台になってくれる  
ことでしょう。

## ～コロナ禍から生まれた動画配信～

2020年2月～新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動を自粛した期間中、子どもたちがお家で楽しく手話に触れ、保護者が手話を学ぶ機会を届けたい！との思いで、活動中の遊びを取り入れた動画を、毎日異なる内容で配信しました。この試みは驚くほどの効果が見られ、活動再開後も新たな内容を加え、毎日配信を続けています。  
※手話通訳(音声通訳)がついています。



# こめっこ

コミュニケーションの芽をはぐくむ子どもたち  
**Communicative Members,  
Kirari Kids of Osaka**

第1・3土曜日 午後  
対象：0～6歳の未就学児とその家族

1. 手話のあふれる場所で、子どもたちは楽しみながらわかる体験をします
2. 仲間や先輩ろう者とかかわり、伝え合う力をはぐくみます
3. 保護者向けの手話学習会、ミニレクチャーや交流会など、さまざまなプログラムがあります



手話劇、手話ばんばん  
絵本よみ、ゲーム  
クイズ など



手話に出会って  
おててはなそう！  
おててであそぼう！

手話がわからなくても大丈夫！  
通訳スタッフがすべて日本語に訳します

# べびこめ

## ～BABYこめっこ～

毎週 火曜日、金曜日 午後  
対象：0～3歳の乳幼児とその家族

1. 子どもたちとろうスタッフとのふれあいの場
2. 保護者は育児の中で使える手話を楽しく学びます
3. 子どもの発達やかかわり方などの相談や個別相談も行っています



手話ばんばん  
表現あそび  
絵本よみ など



BABY こめっこ・こめっことは、  
大阪府「こめっこプロジェクト」  
の一環として実施されています。

ご参加希望の方は  
ホームページより  
お申込みください！



ホームページ



facebook



instagram

# 子ども・ママパパ・スタッフ みんなで楽しむ「こめっこ」

## 絵本よみ

絵本の世界を手話でよみ伝えると  
子どもたちはどんどん引き込まれて  
いきます



## 手話から生まれる 手話ばんばん

定番の「こめっこばんばん」から始まり、  
季節ばんばん、生活ばんばん…など、  
たくさん！



QRコードを読み込むと  
動画をご覧いただけます

“手話ばんばん”は、ネイティブサイナーが日本手話  
から作り出す作品です。その表現に含まれる固有の  
リズム、間合いや流れ、動きの抑揚や強勢は、まさ  
に手話のプロソディーといえるでしょう。こころ惹  
かれる手話ばんばんを繰り返し楽しむことで、幼い  
こどもたちは自然に手話を吸収していきます。また、  
手話の意味とリズムを活かした日本語訳を工夫して  
います。



## 手話劇

いろいろな物語をろうスタッフが  
日本手話で演じます  
時にはアドリブも飛び交い、笑いが  
いっぱい！  
大人も思わずのめり込みます



## いろいろなあそび オリジナルたいそう



## ママパパのための 手話学習

楽しみながら笑顔で手話のお勉強  
子育ての中で使う手話や子どもにぴったりの  
表現を学びながら、視線を合わせ、手と表情  
で伝えることの大切さを実感していきます



QRコードを読み込むと  
動画をご覧いただけます

## こめっこのスタッフ

いっしょに手話で  
あそぼう！はなそう！  
たのしもう！



立場はさまざま、年齢もさまざま  
人工内耳をしているスタッフもいます

## きゅっとものがたり

物語のエッセンスを絞り込んだ、  
小粋な手話作品



QRコードを読み込むと  
動画をご覧いただけます



「こめっこ」「手話ばんばん」は登録商標です

# ひだまり・MOE

ひだまり・MOEは「お子さんのきこえ」について、相談・支援しています。聴覚障がい専門とする心理士がお話をうかがい、幅広いネットワークをもって支援していますので、どんなことでもご相談ください。



きこえない子の心理や発達について教えてほしい

教育はどうなっているのかな？



今どうかかわったらいいの？

同じ体験をしているママ、パパに会ってみたい



きこえない人たちはどうやってコミュニケーションをしているの？

きこえない人の話をききたいな

お母さん、お父さんのお話をうかがいながら赤ちゃんとの笑顔あふれるやりとりをともにはぐくんでいきたい。そう願って、私たちはお待ちしています。



ママパパへのメッセージ  
「こころ だいじょうぶ」  
主任相談員 河崎より

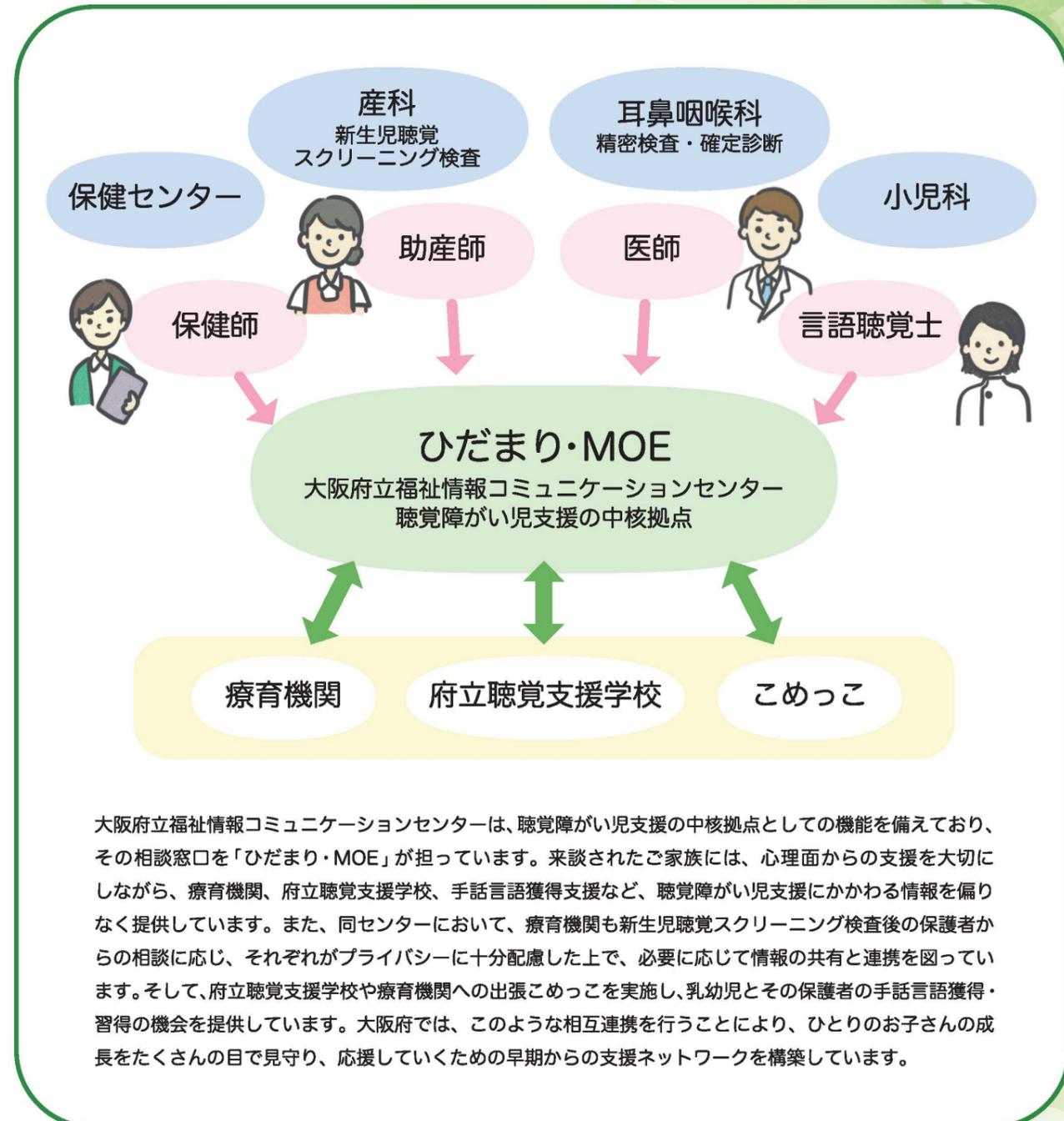


QRコードを読み込むと動画をご覧いただけます

なかお えみこ  
中尾 恵弥子 NPOこめっこ 副代表理事



これまで臨床心理士として、きこえない・きこえにくいお子さんとそのご家族に出会ってきました。多くのママパパから、新生児聴覚スクリーニング検査で「お子さんの耳がきこえないかもしれません」と告げられてから確定診断までの期間に、適切な情報を得られず、孤独で不安な時期を過ごした体験をおききました。これから生まれてきてくれるきこえない・きこえにくい赤ちゃんにママパパには、きこえのことだけでなく、お子さんの健やかな心理的発達にも心を傾けながら、「大丈夫」という安心感の中で子育てをスタートしてもらいたいと思ってお待ちしています。ぜひ一度お話しにいらしてください。



大阪府立福祉情報コミュニケーションセンターは、聴覚障がい児支援の中核拠点としての機能を備えており、その相談窓口を「ひだまり・MOE」が担っています。来談されたご家族には、心理面からの支援を大切にしながら、療育機関、府立聴覚支援学校、手話言語獲得支援など、聴覚障がい児支援にかかわる情報を偏りなく提供しています。また、同センターにおいて、療育機関も新生児聴覚スクリーニング検査後の保護者からの相談に応じ、それぞれがプライバシーに十分配慮した上で、必要に応じて情報の共有と連携を図っています。そして、府立聴覚支援学校や療育機関への出張こめっこを実施し、乳幼児とその保護者の手話言語獲得・習得の機会を提供しています。大阪府では、このような相互連携を行うことにより、ひとりのお子さんの成長をたくさん目の目で見守り、応援していくための早期からの支援ネットワークを構築しています。



主任相談員  
河崎佳子  
(神戸大学大学院教授, 臨床心理士, 公認心理師)  
相談員  
中尾恵弥子  
(臨床心理士, 公認心理師, スクールカウンセラー)  
物井明子  
(臨床心理士, 公認心理師, 元ろう学校早期教育相談指導員)

相談料は無料です(大阪府以外の方はご相談ください)  
お名前、ご住所、電話番号、お子さまのお名前と年齢(月齢)をメールまたは電話でお知らせください。ご事情によっては家庭訪問も行いますので、ご相談ください。

お問い合わせ・お申込み  
〒537-0025  
大阪市東成区中道1丁目3番59号  
大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター 3階  
☎090-3848-7195 ✉hidamari-moe@comekko.org

ひだまり・MOEは大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター(指定管理業務)における相談支援です。  
\*ひだまり・MOEの運営主体:  
NPOこめっこ(特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構)

# 手話言語を獲得・習得する子どもの力 研究プロジェクト



本研究プロジェクトは、  
日本財団の助成事業です。

きこえない・きこえにくい子どもたちにとって、手話言語の獲得・習得は理解力や思考力を含むさまざまな認知発達を支え、手話をとおした自由で豊かなコミュニケーションは人格形成や心の健康に影響すると考えられます。本研究プロジェクトは、「こめっこ」でのかかわりをとおして、脳科学、心理発達、言語獲得(手話・日本語)、学習能力(理解・思考)の4分野から、聴覚に障がいをもつ子どもたちの真の言語力を適正に評価することを目指しています。

## 心理発達(人格形成)

手話言語を獲得する子どもたちが、手話を習得しながら子育てを始める親のもとで成長するプロセスを、愛着形成、認知、コミュニケーション、対人関係、自己認識等、複数の発達ラインから捉える縦断的研究を行います。子どもの観察、発達検査、保護者からの聴き取りによってデータを収集し分析します。後には性格検査等も織り込む予定です。

## 言語脳科学

脳科学の領域から、手話話者は脳の中で手話を言語として理解していることがわかっています。本研究ではMRI検査を用いて、その独自の文法構造やネットワークの構築、言語と思考の関わりについて明らかにしていくことを目指しています。

## 日本語力

手話言語を獲得して育つ子どもたちの日本語力を文法、語彙、コミュニケーションについてリサーチし、追跡していきます。

## 手話言語力

手話文法の力と語彙の力をそれぞれ評価するために、「日本手話文法理解テスト」「日本手話版語彙流暢性検査」を実施します。また、言語を使って他者と適切にやりとりができるかどうかを評価するために「質問応答関係検査」も実施し、それぞれの結果の分析と、対象となる子どもたちの発達的な変化を追っていきます。

## 学習能力(思考力)

言語を獲得することで子どもたちは概念や世界を知り、思考や発想力を上げていきます。事物がどのように繋がっているのか、自然科学の広がりやルールの発見など、思考のひらめきを探る思考力テストを行っていきます。

## 学習能力(理解力)

手話言語を獲得・習得して育つ子どもたちの理解力を明らかにするために、手話での絵本よみや手話劇を題材にしたテストバッテリーを作成します。質問紙とインタビューを併用して実施し、記憶、知識、理解の発達の変化を評価します。



かわさき よしこ  
**河崎 佳子教授** 神戸大学  
心理発達分野 研究統括責任者



親子の愛着が育まれる時期に手話を獲得し、情緒あふれる幅広いコミュニケーションをとおして「人とかかわる力」を培います。そして、「全部わかる」「わからないがわかる」存在として、理解を深め、思考する力を磨きます。こめっこは、ありのままを堂々と生きる子どもたちの成長を見つめ、応援していきます。



さかい くによし  
**酒井 邦嘉教授** 東京大学  
言語脳科学・学習能力(思考力)分野



まわりに言葉があれば、赤ちゃんは自然と自分の言葉にしていきます。それは音声に限らず手話でも同じことです。そうした言葉は、考える力を育てていきます。聞こえが十分でなくとも、手話を使えば十分に考える力が身につきます。言葉があってはじめて、考えることができるからです。

たけい わたる  
**武居 渡教授** 金沢大学  
言語獲得(手話・日本語)・学習能力(理解力)分野



聞こえない子どもたちが手話と日本語の2つの言語を身につけていくことは、きっと彼らの人生にとって強力な武器になっていきます。日本語については、学校やその他、いろいろな場所や機会を通して学ぶことができますが、豊かな手話に接することができる場はそんなにたくさんあるわけではありません。もあこめは、豊かな手話に触れることができる貴重な場だと思います。